

2012年6月16日

「北朝鮮による拉致問題の解決」第2回自民党青年部・青年局全国一斉街頭行動

(東京・とうきょうスカイツリー駅前)

皆さんこんにちは。雨の中で耳を傾けていただいて、ありがとうございます。自民党の谷垣禎一です。今日はこのスカイツリーの下で拉致問題を皆さんにお訴えをしております。あの3月11日の大きな被害を受けた日本。しかしそういう中で立派にこのスカイツリーを建ち上げたわけですね。我々の復興の象徴であるスカイツリー、皆さん、これから大きな日本の活力が出てくるその出発点になって欲しいと思います。

ただ、ひとつだけ残念なことがあるんですね。業平橋という駅の名前がなくなってしまうのはちょっと残念だと思います。昔、在原業平が「名にし負はば いざ言問はむ 都鳥 わが思う人は ありやなしやと」日本の王朝の雅の文化を伝える名前、これやっぱり絶やしたくないなとちょっと思います。

しかし今日は拉致をお訴えする日。今も、家族会の飯塚さん、あるいは救う会の西岡さんから切々たるお訴えがありました。今まで北朝鮮の拉致の被害者として政府が認定しているのは17名。その他に拉致の疑いが極めて濃い「特定失踪者」という方が数百人おられます。しかし問題は日本だけではないんです。世界の13カ国で北朝鮮は人を引っさらって行っている。そういう人道も何もない国なんですね。10年前に小泉さんが平壤に行かれて五人の方を日本に連れて帰ってこられた。それから10年全く物事が進んでいない。先程西岡さんから「自民党も反省して欲しい」と言われました。誠に申し訳ないことだと思っております。世界13カ国で拉致の被害者があると申し上げました。今、アメリカのユタ州の人がやっぱり拉致にあっていた疑いが極めて濃いということが判明してまいりました。我々の同志がアメリカへ行って、アメリカの議会関係者ともこの問題で打合せをしています。アメリカともしっかりと手を組んで、この問題を解決する。先程今年が勝負の年だ。西岡さんからも飯塚さんからもお話がございました。そのためには我々も、自由民主党も全力を挙げてやってまいりたいと思います。先程、拉致担当大臣を設けたのは安倍晋三内閣の時からだというお話がありました。確かに遅きに失したけれども、拉致担当大臣をしっかり設けて頑張ることが必要だ。私は今の民主党政権にももっと頑張りたいと思うんです。民主党政権になって総理大臣は今三人目です。これも多いですけど、拉致担当大臣は六人です。これは政府がもっと一貫した拉致に対する方針を立てて臨まなければいけないということを明瞭に物語っていると思います。私は国際社会とも自由民主党は連帯してこの問題の解決に全力を挙げることをお誓いしたいと思っております。

そして今日は、もうひとつご報告しなければならないことがあります。昨日、国会の中で

自民党とそして公明党と民主党、ひとつ合意ができました。野田総理はですね、税と社会保障改革に政治生命を懸ける。何度も言明をされました。確かに野田総理が言われるように、今の日本の財政状況の中で、消費税を皆さんにお願いをすることは避けて通れないことだと私も思います。今年の予算を見ましても、皆さんからいただく税収よりも借金、つまり赤字国債を発行している額の方が大きい。こんなことが長く続くはずがありません。三年間そういう状況が続いています。そしてそれに加えて、今ヨーロッパで大変な金融危機が起こっていることは皆さんご承知のとおりです。これがいつ日本を襲ってくるか、ということも我々は十分に考えなければなりません。そして何よりも私たちの自民党時代にたくさん借金を残してしまいました。この借金を次の世代、若い人たちに「その借金の返済はお願いする」と言うだけでは私は済まないと思います。私は財務大臣をやった人間としてそんなことでは私が死んでも成仏できない。やはり借金を返すということは我々の世代も努力をした。これはしなければいけないと私も思っています。

ただ、野田総理のこの税と社会保障の一体改革には大きな問題がありました。社会保障、そのために消費税を上げていただく。こう野田さんは主張しておられるわけですが、その社会保障の中身たるやめちやくちやだったのです。どうめちやくちやか。それは社会保障、たとえば年金なんかはもっとバラマキますよという内容でした。一見、聞こえはいいんですよ。全ての国民に一人当たり月七万円の最低補償年金をお配りします。「全ての国民」「毎月七万円」いいことだなあとお思いの方もありません。しかし、ちょっと待ってください。全ての国民という言葉にはトリックがある。年金というのは自分で保険料を払って、もちろんそこに税金も付け足しますけれども、つまり自分の老後を心配して年金に皆さん入っておられる。全ての国民というのは聞こえはいいけれども保険料を払っていない人にも税金でお出ししますよというのが、民主党のマニフェストの年金政策の柱だったのです。そんなバラマキをしたらどれだけカネがいるんでしょう。今、年金の保険料を払っている人も「払わなくても税金で出してくれるのなら、払うのをよそう」こういうモラルハザードも起きかねない。そんなことを許していて、消費税アップというわけにはいかないじゃないですか。これが私どもの主張です。実は、年金だけを取り上げましたが、年金だけじゃないんですよ。医療だって、他の社会保障もみんなこういうバラマキ。結局それで皆さんをペテンにかけて政権を獲った。だけどそれはとてもできっこない。野田さんも腹の中では思っているんです。そこで昨日の合意は全てそれに歯止めをかける。そうして一年間じっくり議論をする。そして、社会保障の道筋を整える。全部そういうマニフェストのまやかしをチャラにさせる、歯止めをかけるという合意をいたしました。これを法律にした上で、それなら野田さんが政治生命を懸けるといって消費税に私たちもご協力しよう。こういうことにしたわけでありまして。私たちは、しかし、民主党ができなかったこと、たくさんまだ付け加えました。やっぱり今の景気状態、2015年から野田さんは消費税上げるとおっしゃっているけれども、それまでに景気を良くする努力や何かを当然しなければならぬ。そういったことをいろいろ付け加えて、私たちはやっていきたい。このよ

うに考えています。そして問題は、私たちは、昨日、自民党の中でこの方針を「よし、谷垣、それで行くならやれ」一任をもらいました。民主党は今、小沢さんが別なことを考えておられるわけですね。これじゃ、決めたって進まない政治ですよ。やっぱり民主党の中できちっと党議でまとめて、この問題を進められるように早く野田さんやっていただかなければいかんと私は思います。

そして、もうひとつ私は申しあげたいことがある。やっぱり野田さんがおやりになりたい。これはやむを得ないことでしょう。しかし、マニフェストには全く書いてなかった。マニフェスト違反です。だから、やることをおやりになったら野田さんは直ちに国民に信を問わなければいかん。私はそのことをこれからも強く野田政権に求めてまいりたい。このように思っております。

この雨の中で皆さんに耳を傾けていただきました。残す会期、あと僅かですが、そういったことを全力を傾けてやらしていただきたい。このように思っております。

自民党、三年前に野に下りました。もう一回皆さんの御信任をいただいて私どもの手で政権を全うしたい。政権を担っていきたい。このように思っています。それはもう一回政権に戻りたいという私利私欲で申し上げているのではありません。この復興の問題であるとか、あるいは拉致の問題であるとか、自由民主党の方がもっともっと物事を前に進められる。その自信があるから。皆さんに長い間政権を与えていただいて、その中で我々が身に付けたものが、遥かに皆さんの安心安全につながる。こういう自負があるからこのように申し上げているわけです。

先程我が党の若い候補者がいろいろ挨拶をされました。優秀な若手も育てております。どうか私ども全力を傾けて戦い抜きますので、自由民主党に温かいご支援をいただきますように心からお願い申し上げ、そして皆さん、一緒に「拉致のことは忘れないぞ」この宣言をして私の話を終わらせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。